

海外生活 エッセー

北京事務所

暇つぶし道具は必須！？ ～中国における飛行機利用のすゝめ～

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 大西 佑宜 (愛媛県派遣)

2年前、北京への赴任にむけて心躍らせている頃、北京事務所に勤務している先輩方に、赴任する前に準備しておいた方が良いことを尋ねたところ、このような回答がありました。「中国の飛行機の出発はよく遅れるから、空港のラウンジが利用できるカードを作っておくと、待っている間のストレスが少なくて済むよ」と。それまで中国をはじめ海外の航空会社の飛行機を利用したことがなかった自分にとっては、このアドバイスは要領を得ないものであったため、その準備を行わずに赴任したのですが、今更ながら作らなかったことを後悔しています。

→ 中国国内線の遅延状況と定時運行率

中国国内線の状況について触れる前に、チケットなどに表示される出発時間・到着時間についての日中間での違いについて触れたいと思います。日本では、出発時間は「飛行機が動き出した時間」、到着時間は「飛行機が完全に停止した時間」と、飛行機の動作が判断基準となります。一方、中国では「飛行機が離陸した時間」・「飛行機が着陸した時間」と、離着陸のタイミングが判断基準となっています。また、日本における定時運行率が「出発予定時刻の15分以内に出発した便数の割合」とされているのに対し、中国では「着陸予定時刻より30分以上の遅延またはキャンセルとなった便数の割合を100%から引いて算出された数値」と、こちらも基準が異なります。

この違いを押さえたうえで、出発の遅延状況を、筆者の43回分の中国国内線利用データを元に確認しました。フライト情報を管理する中国のアプリケーション「航旅縦横」の記録によると、平均的な出発時間の遅れは35.91分。仮に各便の状況を日本の定義による定時運行率を計算してみると、出発予定時刻の15分以内に出発した便は48.8%に留まります。これは、私が主に利用する北京首都国際空港は過密なフライトスケジュールが組まれており、離発着が遅

れると後続便が玉突きのように遅れる傾向にあるため、低い定時運行率となっていると考えられます。それだけの遅れが出れば到着時間も遅れそうですが、43回分の記録では、平均到着遅延時間はなんと3.89分。中には到着予定時間より40分も早く到着している便もありました。中国の定義による定時運行率に基づいて計算すると約76.8%で、中国国内の2017年通年の定時運行率は71.67%とのことです。実績値とそう変わりはありません。利用者としては予定到着時間よりも早くなってラッキーだと思う一方、飛行機を利用する方をお迎えする側にとっては、出口で合流するタイミングの予測が難しいといったデメリットもあります。

日本人の感覚からすると、時間どおりとならないことはイライラの種ですが、驚くことに、中国人利用者は遅延をしてもそこまで怒っている様子はありません。もう慣れているからと言えばそれまでですが、多くの中国人はスマートフォンに動画を保存しており、待っている間はそれを眺めて時間を有効活用している姿をよく見かけます。彼らを見習い、スマートフォンで読書ができるようにしてからは、遅延に対する受忍度も大きく変わった気がします。



出発を待つ機内で保存した動画を見る搭乗客

→ 定時運行率改善への期待

中国民用航空局は定時運行率の目標値を80%と定め、天気予報技術の向上や各種手続きの迅速化を指導するとともに、各空港に対し処理能力の強化などを促しています。到着予定時間が改善されればその分出発の遅れの改善も期待される所であり、予定どおりの出張の実施にもつながりそうです。とはいえ、現時点では出発時間が遅れることを前提に、心にはゆとりを、鞆には暇つぶしの道具を持って中国国内線を利用されることをお勧めします。